みんなの結論は…ジェシカを犯人として拘束することであった。

当初彼女は激しく抵抗したが、取り押さえられるとやがては大人しくなった。夕方になって到着した警察に、終始無言のまま引き渡されていく。

ジェシカは警察に取り調べをうける事になったが、結果的には釈放された。彼女の言動と証拠が一致しないというのが理由であった。

やがて同僚のモルフィスが麻薬取締違反により逮捕されることになる。

ジャックを殺害した犯人は、その後逃走しまだ捕まっていない。一時期は連日報道される日々が続いたが…やがて世間も忘れてしまったようだ。

それから12年の歳月が流れ…

この国では殺人に対する時効が宣言される年月だ。ようやく… ようやく、私は明るい日の光のもとを歩けるのだ。

私は…思い立ったように車をはしらせ、12年ぶりにあのホテルに行った。

偽名を使いホテルにチェックインする。昔よりもずいぶん綺麗になったものだ。オーナーが変わるとこんなにも変わるものか。

「ま、まさか貴方…」

不意に声を掛けられた。もう何年も会っていないが…誰の声かはすぐに分かる。

「キャシー、元気そうで何よりだ。一目みれて、本当によかったよ。」

いまや中年となり子供もいるようだが、彼女の魅力の笑顔は今でも残っていた。

事件直後、私と一緒に逃亡に協力してくれた彼女だが、やはり巻き込むわけにはいかない。私はひとり彼女の元を去っていた。

翌朝、彼女と語り尽くした私は早々にホテルをチェックアウトする。

もう二度とここに来ることはないだろう。悪夢から覚めた私は、また次の道を歩まねばならない。